

【大学等・一般の部】優秀賞

笑顔で見送るということ

九重町 井上 美香



私には、19才と17才の娘たち、そして10才の息子と、3人の子供がいます。夫婦共働きだったので、上の2人の娘を出産した時は、育児休暇が終わると2人共保育園へ通うようになりました。そうになると、朝の時間がとんでもなく大変になってしまいました。

主人と私のお弁当を作り、子供達を起こして朝ご飯を食べさせ、着替えを手伝いながら、自分の身支度もしなければなりません。そして、子供達がある程度自分で身支度ができるようになると、

「早く早く。」
とせかしたり、

「急いで急いで。」
と思わず声が大きくなってしまったりすることもありました。

そんな時、子供達が通っていた保育園で、保護者を対象とした講演会が開催されました。講演会の内容は、子育てについてのお話でしたが、その中で講師の先生がこんな話をして下さいました。

「子供は、保育園や幼稚園でお母さんやお父さんと別れる時、また、小学生の子なら、朝家を出る時、その時その瞬間の見送ってくれた人の顔をその日1日ずっと覚えていて、時々思い出して過ごしている。」と。

笑顔で「行ってらっしゃい。」と見送るか、怒った顔のままろくに言葉も交わさず見送るかではその日の子供の心の中は全く違うものになるということです。

保育園や幼稚園でお友だちと遊んでいる時、ふっと思出したお母さんやお父さんの顔が笑顔だったか、それとも怒った顔だったか。

小学校で勉強している時、教科書にぱっと映し出された顔が、手を振って笑顔で送り出してくれた顔なのか、ムスっとしていかにも機嫌が悪い怖い顔なのか。どちらが子供にとって思い出すとうれしくなる顔なのか、考えてみるとはっきりとわかります。やはり、子供には悲しい気持ちで1日を過ごしてほしくないと思いました。

それから私は、朝どんなに忙しくてイライラしても、子供達に注意するようなことがあっても、見送る時には必ず、

「行ってらっしゃい。気を付けてね。」
と、笑顔で手を振ることを心がけ、ずっと続けています。

朝、忙しくて時間がなくても、子供達と一緒に玄関まで行って、思っきり笑顔で手を振ります。その直前に少し怒ってしまうことがあったとしても。

子供が高校生になって、車で送って行ったときには、ドアを閉めたあと、窓越しに笑顔で手をふりました。

現在小学校5年生の息子は、ベランダにでて、「今日も1日頑張ってる。」という気持ちを込めて、大きく手を振って見送ります。息子も、笑顔で手を振り返してくれます。いつか息子から、

「恥ずかしいから、もうベランダで手を振らなくてもいいよ。」
と言われるまで、私はずっと「笑顔で見送る」ことを心がけて続けていこうと思っています。